



生産者と消費者が交流できる体験型イベント 丸の内農園ジャパンハーヴェスト2019が開催！

丸の内農園 ジャパンハーヴェスト2019

- 期日：11月2日(土)～3日(日)
- 場所：東京駅 大丸有エリア (丸の内仲通り)
- 主催：株式会社JTB 協賛：農林水産省
- 内容：様々な農業体験が出来る展示、国産農産物・加工品の試食、販売 など

■ 食体験や販売を通して生産者と消費者が交流！

「ジャパンハーヴェスト」は、以前開催されていた「ジャパンフードフェスタ」の系譜を受け継いで2015年からスタートしました。本イベントは、単に産地のPRで終わることなく、食体験や農産物の購入を通じて、その産地の魅力を伝え、モノに憧れた人々が産地を訪れ、人々がモノのファンになり国内外における国産農産物の消費拡大を喚起するという「Japanese Foods Showcase」のコンセプトのもと開催されています。5回目の開催となる今年も、丸の内エリアに立地する企業とのコラボレーションを実施し、会場である丸の内仲通りを「体験」「発見」「共感」「購入」4つのエリアに分け、多種多様なブースが出展されました。今年も全72ブースが出展され、株式会社 FARMFES による野菜の収穫体験や農業女子プロジェクトによる企業とのコラボレーション製品の展示、軽トラマルシェでの販売などが行われ、生産者と消費者の交流が図られました。



軽トラマルシェでの販売

軽トラマルシェでの農産物や加工品の販売などが行われ、生産者と消費者の交流が図られました。

■ ワークショップと展示で国産花きをPR！

体験ゾーンにある「日本の秋を彩る秋色花かごアレンジ&フラワーフォトスポット」ブースでは、農林水産省と一般社団法人JFTDによる花かごアレンジ体験やフォトスポットの設置、花き流通情報連絡協議会による国産花きの展示とアンケート調査などが行われました。国産花きの展示では、花き流通情報連絡協議会に加盟している各県一押しの花材がブース内に展示されました。本県からは、「バラ(アプリコットファンデーション)」と「秋色ミナヅキ」が展示されました。展示された高品質なバラと圧倒的な存在感を持つ秋色ミナヅキは、来場者だけでなくブース関係者の注目も集めるなど大好評でした。展示花材は1日ごとに入れ替えられ、2日間で13県21品目の展示が行われました。また、展示花材はそれぞれの日の最後に来場者にプレゼントされました。

花き流通情報連絡協議会では、展示した花きの人気投票もを行い、消費者ニーズの調査を行いました。その結果、1日目、2日目ともにバラが1位となり、消費者からの人気の高さが確認されました。また、アンケートに協力いただいた方には切り花1本(カーネーションまたはリンドウ)がプレゼントされ、2日間で410本(210本/日)の切り花が配られました。



大好評の花かごアレンジ体験



秋色ミナヅキの展示



バラの展示